

(9) 四 国



四国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあり、弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

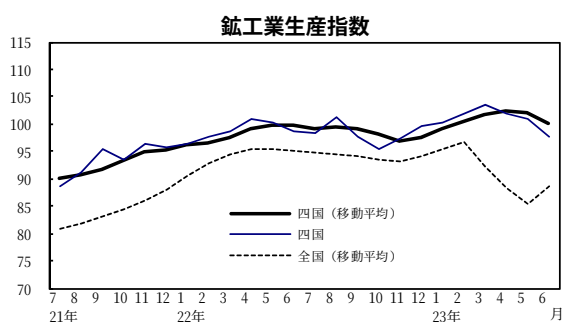
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 23 年 5 月）	今回（平成 23 年 8 月）	
景況判断	持ち直しの動き	弱含んでいる	↓
鉱工業生産	持ち直しの動き	弱含んでいる	↓
住宅建設	増加	大幅に増加	↑
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直し	厳しい状況にあり、弱含んでいる	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

化学は、医薬品の生産があったことから、増加している。電気機械は、半導体集積回路の生産が反動減となり、減少している。食料品は、6月は東日本大震災の影響による生産増が落ち着いたことから、減少している。パルプ・紙は、東日本大震災の影響により、代替生産があったことから、増加している。一般機械は、半導体製造装置が3月の生産からの反動減により、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

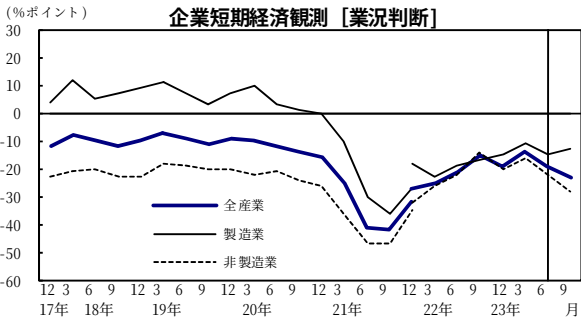
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
化学	17.1	▲4.6	3.7	▲5.3	1.3
電気機械	15.4	15.9	▲6.9	▲7.2	▲6.3
食料品	13.6	5.5	▲0.5	▲0.1	0.1
パルプ・紙	11.8	3.1	3.2	2.7	2.2
一般機械	8.9	▲1.1	▲2.1	▲2.5	1.2
鉱工業	100.0	4.5	▲1.8	▲1.1	▲0.4

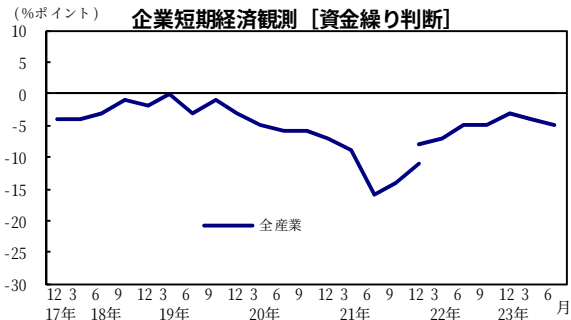
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4～6月期は速報値。
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

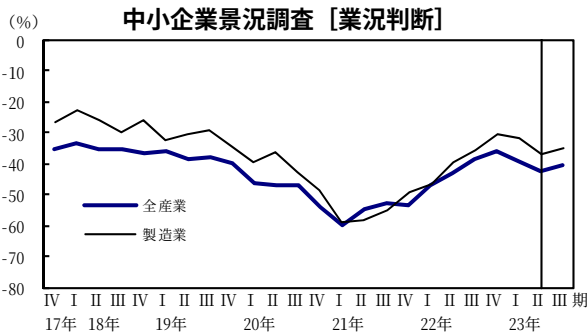
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。23年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。23年III期は見通し。

②景気ウォッチャー調査（7月）〔企業動向関連（現状）〕

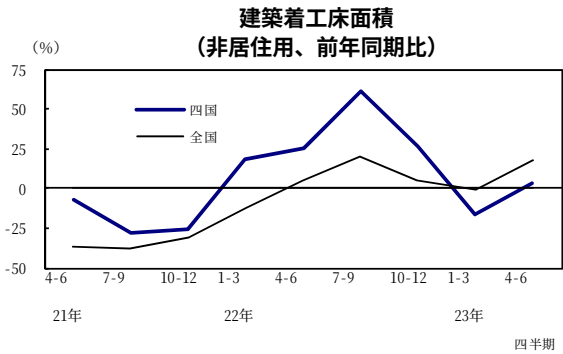
「夏場の不需要期で荷動きが悪い。また、原材料の価格も高止まりしている。小売の力が強すぎて価格修正がうまくいかず、採算が取れない（パルプ・紙・紙加工品製造業）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 〔設備投資（6月調査）〕

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2(▲2.5)	2.9(2.8)
製造業	32.4(0.4)	8.7(11.8)
非製造業	▲23.1(▲6.7)	▲6.0(▲10.1)

(備考) () は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

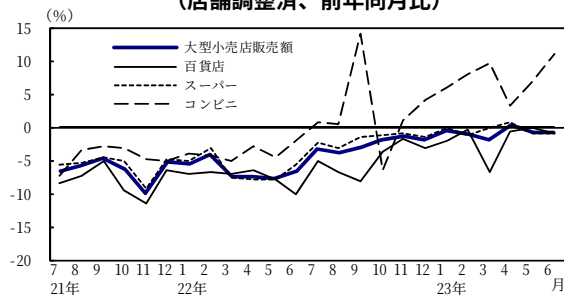
① 大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.4%減、前期比で0.5%減となった。
百貨店は、4月は、化粧品が好調なほか、高額品の一部で動きがあったものの、前年を下回った。5月は、月末の台風接近により入店客数が減少したことなどから、前年を下回った。6月は、中旬頃までの気温が低めに推移し、夏物衣料の動きが鈍かったことなどから、前年を下回った。
スーパーは、飲料等が好調だったことなどから、前年比の減少幅が縮小した。

② 景気ウォッチャー調査（7月）[家計動向関連（現状）]

「自動車生産は元の状態まで回復しておらず、損益分岐点を上回っていない状態である（乗用車販売店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

大型小売店販売額等
(店舗調整済、前年同月比)



	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	▲3.4	▲1.7	▲1.2	▲0.4
百貨店(*1)	▲6.6	▲2.9	▲3.2	▲0.6
スーパー(*1)	▲2.4	▲1.3	▲0.5	▲0.4
大型小売店(*2)	▲2.5	1.0	0.4	1.1
(季節調整値)(*3)	(1.8)	(▲0.2)	(0.4)	(▲0.5)
乗用車(*4)	13.9	▲30.5	▲27.8	▲38.9
(季節調整値)(*4)	(7.6)	(▲33.3)	(2.4)	(▲18.0)

(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比 (%)

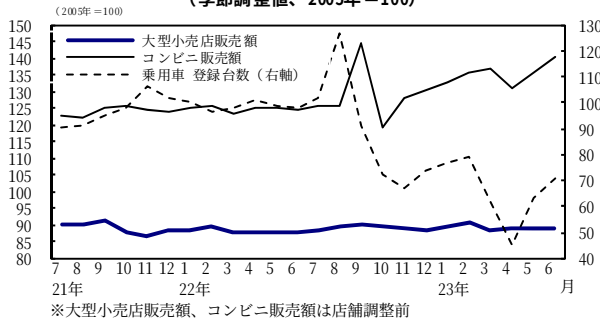
2. 店舗調整前、前年同期比 (%)

3. 店舗調整前、前期比 (%)

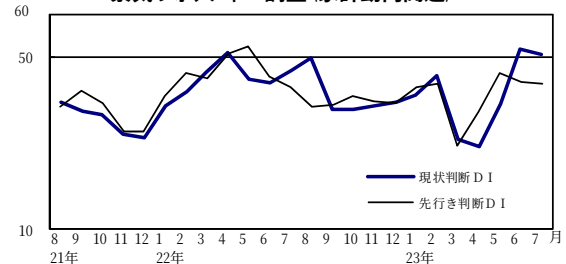
4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)

大型小売店、コンビニ販売額、乗用車登録台数
(季節調整値、2005年=100)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連)

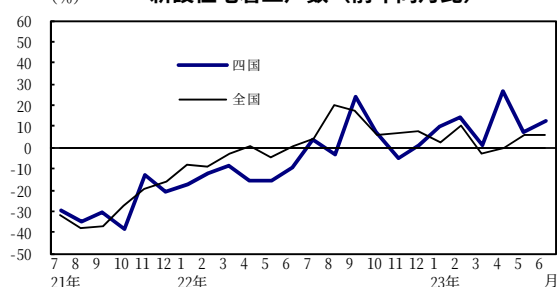


(2) 住宅建設は大幅に増加している。

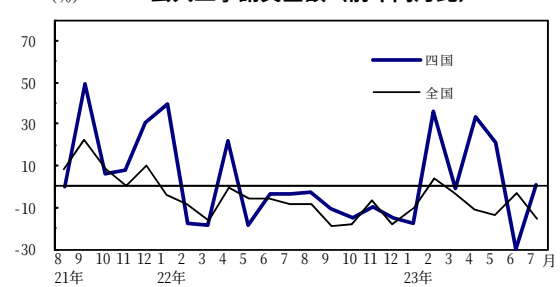
分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



公共工事請負金額（前年同月比）

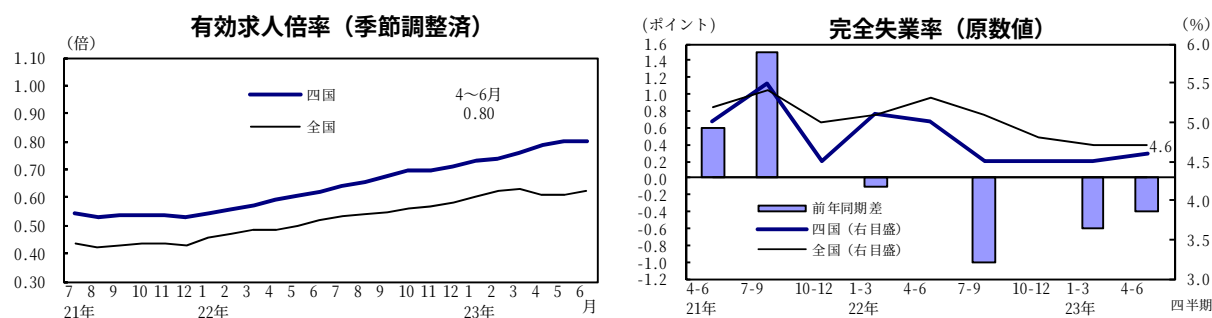


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあり、弱含んでいる。

①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



②景気ウォッチャー調査（7月）【雇用関連（現状）】

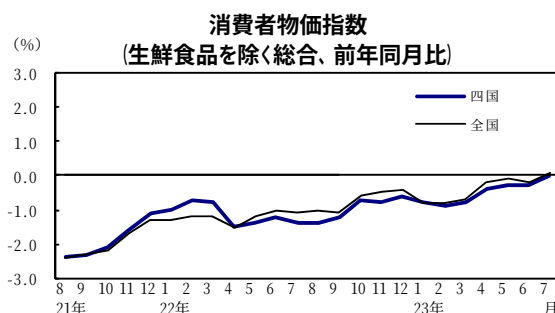
「採用について慎重になっている企業が多く、採用に費やす時間が非常に長くなっている（民間職業紹介機関）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、％)				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	23年7月
倒産件数 (前年比)	81 ▲4.7	65 ▲36.3	72 ▲1.4	55 ▲41.5	30 ▲3.2
負債総額 (前年比)	220 ▲32.4	100 ▲94.4	125 ▲42.8	158 17.5	123 69.3



○ 景気ウォッチャー調査（7月）【合計（特徴的な判断理由）】

<現状>

- ・来客数、客単価共に回復傾向にあるため、今後に期待が持てる一方で、現在は、牛肉の放射能汚染問題の影響が多少ある（スーパー）。

<先行き>

- ・東日本大震災の影響は収まりつつあるが、円高による経済停滞が旅行需要に悪い影響を及ぼす懸念がある（旅行代理店）。

